

(様式1)

令和5年度指定管理者による公の施設の管理状況評価表

1 施設名 (所管課)
富山県五福公園 都市計画課

2 施設所在地
富山市五福

3 施設設置年度
昭和33 年度

4 設置目的
昭和33年に初めて富山県で開催された国民体育大会にあわせて整備された運動公園

5 施設概要
敷地面積：15.6ha
主な施設
・ 県営富山野球場：19,700㎡ 収容人数25,000人
・ 陸上競技場：26,600㎡ 400mトラック8コース
・ 野球広場：20,800㎡ コート数2面
・ スポーツ広場：12,100㎡ クレイ舗装

6 指定管理者
公益財団法人富山県民福祉公園

7 指定期間
3 年
令和5年4月1日 ~ 令和8年3月31日

8 利用者数及び利用（使用）料金収入の状況

(1) 利用者数（人） ※この他、参考となる指標があれば追加

R1	R2	R3	R4	R5
166,004	73,176	95,233	130,796	161,991

(2) 利用（使用）料金収入（千円）

R1	R2	R3	R4	R5
5,251	3,519	3,756	3,658	4,840

(3) 利用料金収入見込み額（利用料金制導入施設の場合）

R1	R2	R3	R4	R5
5,227	5,275	5,275	4,357	4,658

9 評価項目

(1) 利用者数・収入の増減に対する評価

・利用者数は令和4年度比123.9% (31,195人増)、有料公園施設の利用料金収入は令和4年度比132.3% (1,182千円増)であった。
・7月上旬の記録的大雨等の天候不順もあったが、予定された大会等がほぼ順調に開催できたことから、利用者数及び利用料金収入が増加した。

(2) サービス向上に向けた取組み

・「五福公園まちなかまつり」をはじめ、富山大学生によるアカペラLIVE及びジャズLIVE、イチョウ並木の紅葉時期に「ライトアップ」を行った。
・令和5年度から新たに「五福公園ふゆのカーニバル」を実施し、冬季の公園利用促進を図った。
・幅広い年齢層の利用を促進するため、ハンギングバスケット体験会及び楽しい寄せ植え教室を開催した。
・富山県のわがまち・わがみち事業に登録し、県道富山高岡線沿いの歩道清掃、大型プランター9基及び中型プランター25基を季節の花々を植栽した。

(3) 利用促進（収入増）に向けた取組み

・利用者ニーズに合わせ、供用日、供用時間を弾力的に運用した。
・陸上競技場個人利用の4時間利用単位を導入した。

(4) 利用者のニーズ把握や苦情への対応

① アンケート結果

実施方法	①楽しい寄せ植え教室(4月23日、11月5日) ②五福公園まちなかまつり(6月25日)
回答者数	①63人 ②51名
結果	①ほとんどが富山市内の方で、主婦層が多かった。 ②ファミリー層の参加が中心で、半数以上が公園施設・設備に満足していた。
結果を踏まえた改善事項	次期開催を望む意見が寄せられたため、引き続き参加者に楽しんでいただけるよう努める。

② その他利用者の声を反映させる取組み

・競技団体等から組織する「五福公園運営会議」を開催し、アンケートや公園利用者数等をもとに管理運営について協議した。

③ 主な苦情と対応

・駐車場に無断駐車している学生が多い。⇒大学へ引き続きの学生指導を依頼。
・ジョギングコースを一方通行にしてほしい。⇒当コースは公園の園路を利用した走路になっており、幅員が6～8mと広いと一方通行にはできないと理解を求めた。

(5) 個人情報保護の取組み

個人情報に関する指針を定め、職員に周知を図っており、適切な個人情報保護が図られている。

(6) 関係団体との連携

公園に隣接する鶴島町の生産組合と共同で排水路の清掃を実施した。

(7) 施設・設備の維持管理

適切に維持管理を行っている。

(8) 危機管理・安全管理などの取組み

非常時の緊急連絡網、非常管理マニュアルを作成するなど、適切に危機管理・安全管理に取り組んでいる。

10 所管課の管理運営確認状況

- ① 定期報告の受理
- ② 維持管理・運営状況等の担当職員現地確認
- ③ 個人情報に関するトラブルの有無
- ④ 危機管理・安全管理上のトラブルの有無

有／無 回数(有の場合)

有／無	回数(有の場合)
有	12
有	6
無	-
無	-

【トラブルの具体的内容と対応】

-

11 今後の課題等 (収入確保、経費削減、サービス維持向上等の観点から今後の課題を記載)

・桜・イチョウ並木のライトアップのほか、「五福公園ふゆのカーニバル」を開催し、冬季期間においても利用促進及びサービス向上に取り組む姿勢が見られる。また、SNSでの情報発信にも力を入れている。
・施設や設備、備品の老朽化が進んでおり、コストバランスも考慮しつつ、利用者の安全を最優先に優先順位をつけて計画的に修繕・更新を行っていく必要がある。
・引き続き、アンケート調査等による利用者ニーズの把握を行うとともに、合宿の誘致や様々な行事での利用を含め、積極的なPRに努めてもらいたい。